

であるご主張されてゐる所は太子の佛立旨思想と相一致してゐる様に思はれるのである。次に太子の念佛觀から次第を追ふて論述せよと思ふが紙數限られてゐるから、更に稿をあらためて述へ様と思ふ。(未完)

(大正十三年一月廿五日)



立正安國論讀後の所感

靜 溟 生

就中日違得生於此土豈不思吾國哉仍造立正安國論云云(六八七)

聖人は常に眼前のみの事柄に囚はれて其れが批判改善を爲さうとせられたのではなく、开を改善せんには須らく先づ其の根源からして改めなければならぬと主張せられた、畢り其の根源と云ふは宗教の信仰の謂にして其の信仰の正邪が所有諸般の現象の上に影響するものであると云ふ固い信念の發露として茲に立正の面目を忌憚なく絶叫せられたのである。

是れ云ふ迄もなく法華經の開顯統一の原理に基く批判眼の光りである、即ち一念三千といふ大調和の宇宙觀人身觀佛陀觀を教へ所有思想を法華經の絶對真理の壺に容れて之を統一しつゝ、一切の思想をして各其の方向を指示して相互の圓融調和の軌道を布き此の深き根底から出發して眞の慈悲眞の報恩の觀念を涌出せしめ、これによつて利害衝突の多き此の現實の社會に一大調和の文化の宮殿を建立せんとする叫びである。

法華經の示す開顯とは即ち開權顯實にして淺薄低級なる思想を矯正して充實深淵高尚の思想を顯現することである。即ち一念三千の絶對真理の高樓に足を止めてこれからして一切の思想批判の觀察眼を放ちて洗鍊し取捨し統一するには必らず足を此處に固く踏み止めねばならぬ、換言すれば妙法蓮華の信念を強く受持せ

ねばならない、聖人は堅くもこの信念に住せられた、否法華經其のものの活現體として既に正を立て、國家永遠の安泰を企圖されたのである、單なる護國を意味せることは大いに違ふのである、故に立正安國論を造ると云はれたのである。

立正安國といふ其の精神は世界地上の各國家に對しても所有國家は正道を基準としなければ永久の發展永久の平和は望めるものではないといふ教である。

國亡びて山河あり大地廣く草木茂り群生其の中に依然として栖息して居つても國家擧げて此の妙法蓮華の眞理に背かば其の國は既に亡びたるも同然である眞理を根底としない國家にはよしや一時の安全を齎らすことはありとも开は永久の安全永遠の平和とはならないのである、然うして是の眞理なるものは一の人格を透し來つて始めて社會人類の教となるのであるから眞理を無視せる國家や又單なる眞理（部分的の眞理即ち顯を仰がざる隔歴の眞理）を以て社會國家人類を指導せんとするものは俱に國家の災禍を招來するものこと心得ねばならぬ、其の眞理正法たる妙法五字は體用一致本末互映彼の西洋思想の如く美名を付して内毒を覆ふが如きものではない、苟くも思想を批判せんとするには即ち開權顯實の絶對眞理を握らんとするには其の源泉を精察せねばならぬ、名目に眩惑されたり枝葉に囚はれたりすることを許さぬ「源濁レバ流清カラズ」の警告を嚴守して嚴密に觀察しなければ深淺廣狹正邪曲直は容易に判明しないのである。

聖人は直ちに此の宇宙の根本眞理たる妙法五字の最高思想に立つて世界の所有思想を開顯し統一せんとして此に先づ道義を以て建國の理想とした國のみならず、諸先哲の豫言を以て示された即ち大乘有縁の國たる吾が日本國を靈的國土と認め以て此の土に正法を建立して其の感化を世界萬邦に布き及ぼさんとせられたのである、故に聖人は此の眞理正法たる妙法の教理に背く（謗法）國家は亡ぶも可なりとまで主張せられたのである。

されば即ち聖人は國家の爲めに法華經を弘むるにはあらで法華經の爲めに國家を築き所謂妙法五字を以て建設せる大國土を御理想となされたことは明かである、斯の如き見地からせば聖人の生を此の土に得たり、

豈に吾國を思はざらん哉の御言も單に日本に生れたから日本を愛さねばならないなど云ふケチな考へではなく世界人類の最後平安の爲めに特に道義的建國の日本を愛されたことは事實である、即ち正法を護持し弘布せんとするの國であるから或る場合正法正義に従はぬ國家とは命懸けで戦はねばならぬこともあるであらう、かゝる精神は聖人に充ち満ちて居られたから前に述べたやうに眼前の小事に拘泥せられず而かも他の宗教のやうに一人一人の教化からして最後に善を見やうとするのでなく、これも強ちに惡ではないが聖人は最も速に正法弘布を目的とせられたから、先づ國家といふ全體を對告としてこれを説かれたのである、其れには先づ其の當治者たる即ち其の當時の幕府の執權等から最初に目醒めねばならないといふ見地から之を其の許に提出して大いに覺醒を促されたのである。

強いて附言するまでもないが聖人は妙法五字の體驗の上の愛國者であることは勿論である、故に門下吾世
界人類は俱にこの眞理の示す所に従つて人類の思想及び行動を桎梏して行かねばならぬ。



吾が崇拜せる大聖人

吉 田 曙 人

英雄時代を産むか？時代英雄を出だすか？、茲に吾が崇拜せる大偉人、大聖者あり。果して誰ぞ？余は天下一の愚人日本歴史を翻き習ふ事數度に及ぶ然れ共未だ嘗て一人の崇拜すべき者真心より戀慕すべき人を得ず、所謂有徳者！國家功勞者！言ひ換ふれば忠君愛國者、大政治家等は枚擧に暇あらず。今其の中に於て二三の偉人を擧ぐれば忠君愛國燃ゆるが如き、楠公父子、近くば乃木將軍、學徳兼備の二宮尊徳、中江藤樹、政治家としては、最近明治大維新に其天才を振起して内外に其名を稱せられし伊藤博文の如き其人等ならんか。然れども彼等は何れも唯單に當時紊亂の世に出で、政治家或は忠君愛國家としての個人的又は國家的本